

## 平成 1 2 年度試験研究成果

区 分	指 導	題 名	オリエンタル系ゆりプレル・ティング処理球の二度切り栽培特性		
〔要約〕オリエンタル系ゆりの抑制栽培において、切り花後そのまま越冬させる二度切り栽培（据え置き栽）にした場合、プレル・ティング処理した球根の次年度初夏の切り花品質は、プレル・ティング処理を実施しない球根より優れ、球根当たりの有効茎数（販売本数）も多い。					
キ - ワ - ド	ゆり	プレル・ティング	二度切り栽培	園芸畑作部 花き研究室	

### 1. 背景とねらい

ゆり栽培は、暖地では施設の有効利用と夏期高温のため1球1作のショ - トサイクル栽培が原則となっているのに対して、本県では気象条件を生かした抑制栽培を基本にして、切り花後は越冬させて翌年の初夏に採花する1球2作の二度切り栽培が多い。この場合、抑制栽培では盛夏期を経て切り花とするため、品質の向上が課題とされ、その解決のためのプレル・ティング処理技術は、平成9年から実用技術として現地に徐々に導入されている。しかし、プレル・ティング処理球の二度切り栽培に関する研究事例が無いことから、無処理球との比較検討を行った。

### 2. 技術の内容

- (1) 抑制栽培における、プレル・ティング処理球根の切り花後の二度切り栽培（図）では、無処理球根の場合と比較して、初夏の切り花長、切り花重、輪数いずれも優れている（表1）。
- (2) 二度切り栽培では、分球により着蕾花茎が増加するが、プレル・ティング処理球根の場合は球根当たりの有効花茎（販売茎数）は無処理球根よりも増加し（表2）、抑制と二度切りを合わせた収益試算でもプレル・ティング処理球根は、一日当たりの労働報酬が多い（表4）。

図 作型体系

作 型	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	P<=>P : プレル・ティング □ : 定植 □ : 収穫
抑制栽培	-----												□
二度切り栽培	-----			無加温施設栽培			-----		P<=>P	-----		□	□

### 3. 指導上の留意事項

- (1) オリエンタル系ゆりのプレル・ティング処理方法については、平成8年度指導上の参考事項『プレル・ティングによる抑制ゆりの品質向上』を参考にする。
- (2) オリエンタル系ゆりのプレル・ティング処理は、抑制栽培における品質向上効果が高いが、十分な効果を得るためには、敷きわら等を行ったり、高畦にして散水による地温低下を促進する必要がある。
- (3) 抑制栽培終了後に球根を掘上げ、新球根を定植して無加温施設栽培で季咲とした場合、良品が得られるものの、時期的に出荷量が多いため良品が単価に反映されず、作型全体の労働報酬は低い。

### 4. 技術の適応地帯 県下全域

### 5. 当該事項に係る試験研究課題

[花き2] - 2 - (1) - ア - (イ) - d プレル・ティングによる抑制ゆりの品質向上技術の開発

### 6. 参考文献・資料

平成8年度 指導上の参考事項『プレル・ティングによる抑制ゆりの品質向上』

7. 試験成績の概要 ( 具体的デ - タ )

表1 プレル - ティング処理球、無処理球の二度切り栽培 \* における切り花 ( 有効茎 ) の性状

品種名	プレル - ティング 処理の有無	開花日 ( 月日 )	切り花長 ( c m )	切り花重 ( g )	輪数 ( 輪 )
マルコポ - ロ	有	6.28	114.2	178.4	3.4
	無	6.28	105.4	130.1	2.7
ソルボンヌ	有	6.26	102.1	154.6	2.9
	無	6.27	100.0	139.4	2.5
シベリア	有	7.11	96.5	179.4	2.9
	無	7.11	91.2	143.2	2.6

\* 供試球 ( すべて 18/20cm ) は、1999 年 7 月 7 日から 12 3 週間のプレル - ティング処理を実施したものと、解凍済み球根を 7 月 2 7 日に同時に 20cm 角で定植して切り花調査した ( 表 3 ) 後、圃場でそのまま越冬させた。二度切り栽培における春の施肥量は、10 a 当たり窒素成分で 8 kg とした。

表2 プレル - ティング処理球の二度切り栽培における収穫状況 ( 2000 年 )

品種名	プレル - ティング 処理の有無	供試球数 ( A )	開花 茎数 ( B )	規格内 * 切り 花本数 ( C )	出荷率 ( C / B )	球根当たり有効 茎数 ( C / A )
マルコポ - ロ	有	35 球	44 本	37 本	84.1%	1.06 本
	無	35	49	29	59.2	0.83
ソルボンヌ	有	35	51	33	64.7	0.94
	無	24	40	14	35.0	0.58
シベリア	有	21	24	23	95.8	1.10
	無	29	41	31	70.5	1.07

\* 経済連規格

表3 供試球の前年 ( 1999 ) の抑制栽培における切り花の性状 \*\*

品種名	プレル - ティング処理 * の有無	開花期 ( 月日 )	切り花長 ( c m )	輪数 ( 輪 )	茎径 ( mm )	切り花重 ( g )
マルコポ - ロ	有	9.19	84.7	5.5	7.2	160.2
	無	9.29	77.8	5.1	6.3	122.3
ソルボンヌ	有	9.19	79.8	6.7	7.6	163.8
	無	10.4	74.2	5.1	7.1	132.3
シベリア	有	10.6	74.5	4.7	6.2	138.8
	無	10.21	67.1	4.1	5.8	120.2

\* 処理球は 12 で 3 週間実施後、無処理球は解凍済み球根を 7 月 2 7 日に定植

\*\* 供試球はすべてオランダ産 18/20 c m 球を使用し、採花時には地際から収穫した。

表4 マルコポ - ロの栽培におけるの 2 a 当たりの収益試算 ( 1998 ~ 1999 ) ( 円 )

栽培方法	プレル - ティ グ 処理	販売額			経費 *	所得	労働時 間 ( hr )	報酬 **
		抑制	二度切り	合計				
抑制二度 切り栽培	有り	1,102,700	204,484	1,307,184	869,826	437,358	190.8	18,338
	無し	896,582	121,695	1,018,277	734,122	284,155	172.4	13,186
抑制 + 秋植 ***	有り	1,102,700	433,500	1,536,200	1,147,457	388,743	234.2	13,279

\* 岩手県生産技術体系 ( 1996 ) を一部改変し、プレル - ティング処理区は、冷蔵庫の減価償却分を含む

\*\* 一日当たり労働報酬

\*\*\* 抑制栽培での切り花収穫後に球根を堀上廃棄し、新球根を定植する作型